

1 学校教育目標

【教育目標】

校是「天下第一関」の下、高い知性・豊かな情操・強い意志・健やかな身体を育み、円満な人間性と社会性とを備えた真に次代を担うにふさわしい人材の育成を目指す。

- ・知・徳・体のバランスの取れた人間形成をベースに据えつつ生徒一人ひとりの進路実現を目標に教育活動を推進する。
- ・3年間を見通した教育活動を推進するために、全教職員で協働して取り組んでいく体制の強化を図る。

【中・長期目標】

- ・単位制に基づく特色ある教育課程を編成し、多様化する生徒の進路選択に適切に対応することにより、生徒一人ひとりの進路実現に努める。
- ・学習習慣の確立による学力向上と授業研究・授業評価の推進による授業改善に努め、地域の期待に応え得る進学実績の向上を図る。
- ・積極的情報発信及び地域との連携による、開かれた学校づくりに努める。

【令和5年度重点目標】

「探究心・洞察力・創造性の醸成」～自律した学習者の育成を通して～

- ① 学校運営: 社会の変化を的確に捉え、教職員の協働体制の強化及び家庭・地域・関係機関との連携により、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。
- ② 学習指導: 主体的・探究的な学びを通じた思考力や判断力の育成により、更なる学力の向上を図る。
- ③ 生徒指導: 自主・自律の校風を尊重しつつ自己指導力を高めることにより、豊かな人間性を育てる。
- ④ 進路指導: 3年間を見通した組織的かつ系統的・適時的な指導により、自らの将来に向けたビジョンをもたせ、希望進路の実現を図る。
- ⑤ 学科間連携: 各学科それぞれの長をを活かし伸ばすとともに学科間の連携を行うことにより、教育の質の向上を図る。

2 令和4年度の状況並びに本年度重点を置いて目指す成果及び取り組むべき課題

【学校運営】

・校外研修については、新型コロナウイルス感染症の影響により計画を抜本的に見直し、普通科、探究科とも目的地を北海道に変更して実施することができた。今年度も状況を判断しながら、普通科 北海道、探究科 シンガポール方面で検討している。

・今年の卒業式、入学式は、保護者の参加人数やマスクの着用等を検討していく中で全て実施することができた。今後も新型コロナウイルスへの対応の変化に対応しながら、さまざまな活動を従前の形に戻せるように進めていく。

・メール配信については、コロナ感染情報を含め、災害等による緊急連絡から、事務室からの連絡に至るまで、回数は増加した。今年度も各受信者へ必要な情報提供を行い、全受信者が適切かつ重要な情報を確実に受信できるようにする。また、今年度は新入生全家庭の緊急メール登録を入学式当日迄に実施することができた。

【学習指導】

・観点別学習状況の評価を、生徒指導要録や通知票に円滑に記載できるよう、記載上の留意点や評価規準に係る情報提供や協議等を昨年度は3回行った。また、その経験やノウハウをもとに、生徒の学習成果や教員の授業改善につながるよう、研修等により指導と評価の一体化を更に図っていく。

・校務支援システムによる、成績処理、出欠統計、指導要録作成及び調査書作成等のため、情報部及び進路指導部と連携して、マニュアルの作成や改訂に取り組んだことで、処理の遅延等もなく、業務を遂行できた。また、校務支援システムの使用開始から早4年目を迎えるが、依然として担当者による年度初めの登録作業の負担等の課題はある。今後も他校とも情報交換を行いながら教科担当及び担任の業務軽減を図っていく。

・アクティブ・ラーニングの実施やICTの活用により、新たな授業展開を取り入れている。授業アンケートの結果でも「授業にアクティブ・ラーニングを取り入れている」ことに対して72% (教員)、84% (生徒) は肯定的回答であった。今後も新学習指導要領に対応した授業に向け教職員への啓発に継続的に取り組む。

【生徒指導・教育相談】

・新型コロナ感染症拡大防止のため、依然として全校で集まる機会は少なかったが、ホームルームや登校指導・通学路指導等とおして、ルールやマナーについての指導を行った。今年度も1年次生に対する新入生情報モラル教室及び情報モラル研修会を実施するとともに、他学年に対してもSNSの利用などについて、継続的に指導をしていく。

・いじめアンケート、生徒実態調査及び生徒や担任からの情報に基づき、生徒の実態把握に努め、いじめが疑われる場合はいじめ対策委員会を開き、対応を検討した。今後も、学校行事やホームルーム活動、部活動等、コロナ前の状態に戻しながら、よりよい人間関係を構築できるよう促していく。

・生徒情報について、定期的な情報交換の場をもった。また、スクールカウンセラーや保護者と緊密に連携して適切な援助を行っている。今年度も、全教員で支援を必要とする生徒の情報を共有し、問題の兆候に対してスクールカウンセラーや保護者と連携し、迅速に対応していく。さらに、教育相談や特別支援教育についての理解を深めるため、校内研修を充実していく。

【進路指導】

・生徒個々への指導は学年ごとの進路検討会やそれを受けての生徒との個別面談や保護者を交えた三者面談等で充分に実施することができた。引き続き進路だより等で生徒への進路意識の高揚を図り、今年度は新たに2年次生向けの進路通信を発行することで多面的な進路指導の充実を努めていく。

・年2回以上の進路検討会を実施することで、適切な文理選択、履修選択、志望校検討等、各年次の課題に対して、それぞれ分掌と各年次の連携を図ることができた。検討会議の回数は充分であるが、進路検討会に年次を超えて多くの教員が気軽に参加するなど、生徒の進路について情報を共有できる体制を構築していく。

・各予備校などが主催する学習指導に関する教員対象の研究会への参加において、コロナ禍により対面型は難しかったが、オンライン型に参加する人数が増加した。今後は更に、進路指導に関する業務でスクラップが可能なものを整理し、教員の研究会や大学訪問への参加が実施しやすい環境整備に努めていく。

【健康・安全】

・新型コロナウイルス感染症対策について、管理職、学校医、教職員が連携を図り、「ほけんだより」でこまめに生徒、保護者に情報提供することで校内での感染を最小限に食い止めることができた。

・各種検診及び新体力テスト、クラスマッチ、体育大会等すべての行事を工夫して実施することができた。

・令和5年度から、新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類に変更される見込みで、マスク着用が個人の判断で行われることになる。PTAと連携しながら、感染症対策を検討しつつ、学校行事を更に充実させていく。

【図書・情報】

・図書館の配架や新刊の購入等により書籍への興味を喚起する工夫等を行うことができた。また、図書館を積極的に活用した授業展開を今後も模索していく。

・校務支援システムについて、教育課程による大幅なシステム変更に対応すべく、県教委との連携をとりながら対処している。マニュアルも毎年更新しなければならないが、今年度も校務支援システムについての対応を、業務に遅延のないよう行っていく。

・情報セキュリティについては、個人情報保護、セキュリティ対策、教育現場での著作権の範囲等、適宜教職員・生徒に情報の提供を行い、適切な運用ができた。今後も機器の老朽化状況やソフトウェア等の更新・変更予定等を考慮しながら対応していく。また、外部指導員による研修会等も適宜行っていく。

【教育企画】

・アンケート調査の結果、普通科及び探究科の生徒の多くが課題を発見し、解決する力が身についたと答えている。また、発表方法の改善に取り組みたいと答えていた。さらに、普通科、探究科ともに各年次で育みたい力を定め、課題研究をはじめとする教育活動を推進してきた。今後もアンケート調査を参考にしながらスクラップに取り組むとともに、外部からの意見も踏まえ、取組の改善に努めていく。

・本校の探究活動を「学びの速報」により周知するとともに、スーパーサイエンスハイスクール事業で推進した研究開発の成果をリーフレットにまとめることができた。また、令和元年度のわくわく探究教室に参加した当時の小学生が、今年度高等学校に入学する。追跡調査の実施について検討するとともに、令和8年度に設置される併設中学校を見据え、内容の改善に努めていきたい。

・文系と理系が融合した学びや教科の枠にとらわれない学びを推進することができた。また、コロナ禍で制約が生じたものの、工夫により実践することができた。今後も新学習指導要領を踏まえた実践となるよう、引き続き改善に努めていく。

【業務改善】

・新型コロナウイルス感染症対応においては学校全体で組織的に対応する体制を整備し、校内における感染拡大を防止することができた。また、綱紀保持に係る校内研修等を計画的に実施し、教職員の意識高揚を図ることができた。今後は、新型コロナウイルス感染症対応に係る国や県の新たな方針を踏まえ、従前の教育活動を展開することができるようにするとともに、ノウハウが継承されるよう努めていく。また、スクール・ポリシーや教育目標の実現に向け、全ての教職員が共通理解の下、効果的に学校運営を推進することができるよう、学校の組織力向上を図る。

・職員会議等の審議事項・連絡事項を整理するなどして会議時間の短縮を図るとともに、教員間の業務の平準化を図ることで、業務改善を推進することができた。今後は、業務の見直し・精選を着実に進めるとともに、正副担当間で有機的に連携するなどして教員間の業務の平準化を一層推進する。また、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から、中止や規模縮小、オンライン実施等の対応をとった業務については、一律に従前の対応に戻すのではなく、これを契機として業務のスリム化を検討する。

・職員室内の作業コーナーを有効に活用することで情報共有やコミュニケーションの充実を図ることができた。今後は、業務の平準化を進めることで年休や代休等の取得しやすい職場環境の実現を図る。

3 自己評価				4 学校関係者評価			
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学校運営	学校行事の円滑な運営	・入学式、卒業式の円滑な準備と運営・業務分担の検討を行う。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	4	・入学式、卒業式とも、コロナ前の形に戻して開催し、円滑に準備・運営することができた。 ・卒業式については、案内文書の配付先を精査し、業務改善を図った。	・ご努力に感謝いたします。 ・案内文書の配布先と、業務改善の関係が何かわからない。	A
	保護者との連携促進	・PTA役員と連携し、保護者がよりPTA活動に参加できるように方策を検討する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・PTA総会、常任委員会ともコロナ前の形で開催し、保護者の参加促進を図ることができた。また、PTA新聞編集委員の熱心な活動により、素晴らしいものを作り上げることができた。 ・進路情報交換会については、全学年対象の回と3年次対象の回で内容を仕分け、より効果的なものに改善する必要がある。	・PTAのあり方も変化しているようです。教員の負担にならない範囲で方策をご検討ください。 ・実態調査のアンケートでは、保護者側の評価が、10ポイント以上上がっていることもあり、評価は4でも良いのでは。 ・「素晴らしいもの」に具体性が無いので、何が素晴らしいかわからない。	A
	情報発信の推進	・メール配信システムのより効果的な運用を目指す。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・緊急連絡に加えて事務連絡の配信に利用したり、学年別の配信を可能にしたりするなど利便性の向上を図った。 ・クラス別の配信やファイル添付を可能にするなど、利便性の一層の向上を図る必要がある。	・公式Instagramの開始は今の世代の生徒保護者にとって適していると思います。 ・過渡期ならではのご苦労に感謝します。	B
学習指導	新学習指導要領の円滑な実施	・観点別学習状況の評価が、生徒指導要録や通知票に円滑に記載できるよう、情報提供や協議等を行う。	観点別学習状況の評価についての情報提供や協議等を 4:5回以上行った。 3:3回以上行った。 2:1回以上行った。 1:全く取組めなかった。	3	・観点別学習状況の評価については、研修を3回開催し、円滑に実施することができた。保護者からの問い合わせにも、適切に回答し、理解を得ることができた。 ・業務量の増加につながっている面があり、効率的な評価手順を研究したい。	・観点別状況の評価は、大変なご苦労があったことと拝察いたします。円滑に導入されていることから、4でもいいのでは。研修が3回で評価基準を満たしていないのは、口頭による情報提供などをカウントされてはいいのではないかとと思う。 ・保護者からの問い合わせはどのような内容であったか。簡単でよいので、記述すべきではないかと思う。	B
	校務支援システムの円滑な運用	・校務支援システムによる、成績処理、出欠統計、指導要録作成及び調査書作成等の定着のため、情報部及び進路指導部と連携して、マニュアルの作成や改訂に取り組み、教科担当及び担任の業務を支援する。	システムのトラブルによって、提出期限に間に合わなかったことが 4:全くなかった。 3:1回以上あった。 2:2回以上あった。 1:4回以上あった。	3	・システムのトラブルによって校内の処理期限に間に合わなかった事案は1件であった。 ・他に校務支援システムの運用に関する大きなミスが2件あったため、運用方法の改善を図ることが喫緊の課題である。	・困難な課題だと思いますが、早期発見とその対応に取り組んでいただきたいと思います。 ・システム導入が負担にならず効率アップになるように期待します。 ・外部に提出する調査書等をはじめ、今後、重大なトラブルにならないようにチェック体制を十分に取ってほしい。 ・「このようなミスはあったが、このように対処した、このように改善すべきである」のように、具体性が必要である。 ・二度とあってはならないことであることを全教員に周知してほしい。	B
	基礎基本の徹底と探究力の育成	・アクティブ・ラーニングに積極的に取り組み、確かな学力を定着させるための学習環境をつくる。	アンケートで「この授業に意欲的に取り組みましたか」の質問に対して「そう思う」の回答が 4:80%以上。 3:70%以上。 2:60%以上。 1:60%未満。	3	・アンケートで「この授業に意欲的に取り組みましたか」の質問に対して、「そう思う」の回答が76.6%であった。「どちらかというと思う」も含めると99.1%になった。 ・新型コロナウイルスが5類感染症に移行したこともあり、探究力の育成に向け、授業における生徒の主体的・協働的な学習活動を取り入れやすくなってきている。	・授業に意欲的に取り組まれている姿は確かな学習成果に結びつくものと考えます。 ・高校時代から授業への積極的な取組を意識させていることは素晴らしいと思います。大学の現場では近年の学生は与えられることだけを行う傾向が以前より増えたように感じています。 ・よく頑張っておられます。評価基準に僅か届かずでした。 ・必ずしもアクティブ・ラーニングが全てであるとは思わないが、小中学校自体が大きく変わっている。高校もそうした動きをしっかりと引き継ぎながら指導していく部分もあるように思う。	A
生徒指導・教育相談	基本的な生活習慣の育成	・ホームルームや全校集会及び登校指導等、あらゆる機会を通じてマナー意識の向上を図り、時間厳守等、集団行動の際のマナーについての意識を徹底する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・登校指導や通学路指導等を計画どおり実施した。全校生徒が集まる場において集合時間の厳守や集合時の行動等の意識の向上について呼びかけてきた。 ・全校対象の講演会等においてその聴講態度に問題のある生徒が一部にいた。	・生徒指導には、全教職員が一丸で当たられるようお願いいたします。 ・具体性に乏しいと思います。	B
	自他の生命を尊重する豊かな心の育成	・様々な調査を通して、いじめの実態把握に努め、生徒部内で情報を共有し学年とも連携して、未然防止・早期発見に努めるとともに、スクールカウンセラーやPTA等、外部関係者との連携を強化する。	4:いじめ事案が発生しなかった。 3:いじめ事案が発生したが解消された。 2:いじめ事案が発生し、解消途上である。 1:いじめ事案が発生し、解消途上ともいえない。	2	・いじめアンケートや本人・保護者からの訴えで認知した事案については、いじめ対策委員会を開いて、調査・対策立案を行い、関係生徒の指導・支援を通して解消に努めた。 ・一方で、現時点では解消途上の事案もあり、今後も継続して指導・支援していく。	・困難な課題ですが、早期発見と対策に取り組んでいただきたいと思います。 ・生徒の将来に渡って影響を与えることもありますので、発見も難しいとは思いますが、粘り強く取り組まれることを希望します。 ・いじめ根絶に向け、力強い取組を期待します。	B
	教員・保護者及びスクールカウンセラーとの連携による教育相談体制の確立	・教育相談係連絡会を定期的に行うことで、気になる生徒について意見交換をし、生徒への支援の方法を検討するとともに必要な援助を行う。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	4	・教育相談係連絡会や生徒部会で定期的な情報交換を行い、スクールカウンセラーや医療機関と連携を保ちながら、生徒への適切なケアを行うことができた。	・引き続き、専門家との連携強化をお願いします。(2)	A
進路指導	生徒一人ひとりの自己実現に向けた支援の充実	・生徒一人ひとりの能力や適性に応じた適切な目標設定ができるよう、面談などの個別指導を充実させ、進路だより等により、総合型選抜や学校推薦型選抜を含めた大学受験に関する情報を保護者・生徒に分かりやすく伝える。	4:進路だよりを20回以上作成した。 3:進路だよりを15回以上作成した。 2:進路だよりを10回以上作成した。 1:進路だよりを5回以上作成した。	3	・面談や個別指導の実施に当たって各学年と連携して取り組んだことにより、低学年の生徒との面談回数が増え、生徒一人ひとりの自己実現に向けた支援を充実させることができた。 ・「進路だより」等を通じて大学受験に関する情報を保護者・生徒に分かりやすく伝えるように努めたが、1、2年生への発信が十分ではなかった。	・達成状況の診断欄に進路だよりの発行回数を入れて、評価の根拠にしてください。 ・面談回数や連携について具体的な記述が欲しい。 ・どのように不十分であるかの記述を行う必要がある。	B
	3年間を見すえた継続的な進路指導体制の構築	・進路検討会等により、進路指導部と学年団が連携して指導に当たる体制を作り、指導において、担任により指導内容に個人差が出ないよう支援する。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	3	・進路指導の一環としての文理選択などを含めて各学年と連携して取り組み、進路指導体制の強化を図ることができた。特に1、2年生については2学期の検討会において難関大学の進路指導について詳細に検討した。 ・今後は、進路意識の一層の高揚を図るため、3年間を通じた系統的な進路指導の在り方を検討することが課題である。	・進路指導体制の強化は高く評価できるものと考えます。 ・進学を最終目的とせず進学後からスタートという意識を持たせていただくと幸いです。 ・ご努力に感謝いたします。 ・検討したのちに、改善点はあったのか？検討してもアクションが無ければ、検討した意味がなくなると考えます。	B
	思考力・判断力・表現力の育成に向けた学習指導体制の充実	・教員の授業力や進路指導における資質向上のため、予備校や大学での研修への参加希望を支援するとともに、各学力層に応じた指導が行えるよう、模試分析や授業・課外等において各教科と連携を図る。	4:十分な取組ができた。 3:取組は概ねできた。 2:取組が低調であった。 1:全く取組めなかった。	4	・コロナ禍で対面型の研修会への参加が難しい状況が続いたが、今年度は教科研究会への参加が増え、最新の傾向を踏まえた学習指導体制の充実を図ることができた。 ・先進校視察も実施し、教科指導や進路指導のスキルアップに向けて取り組んだ。 ・模試分析や課外授業なども教科との連携を図りながら推進した。	・引き続きよろしくお願いたします。	A

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
健康・安全	生徒と教職員との協同安全衛生管理体制の確立	・新型コロナウイルス感染症の感染防止に係る衛生管理を管理職、教職員だけでなく、さらに保健整備委員とも連携を図りながら徹底することで、校内における感染拡大がないようにする。	4: 校内で感染の広がりがなかった。 3: 校内での感染を最小限に踏みとどめた。 2: 校内でクラスターが生じた。 1: 校内でクラスターが生じ、全校に拡大した。	3	・新型コロナウイルスだけでなく、季節性インフルエンザも含めた感染症の管理体制については、発生を皆無にすることは不可能であるため、いかに校内への感染を最小限にとどめるかに尽力した。その結果、本年度は季節性インフルエンザによる欠席者が、コロナ禍のここ2～3年に比べて多く発生したが、基本的な感染対策を徹底し、感染拡大を一定の範囲内に留めた。	・しっかりと感染対策に取り組みされていると考えます。 ・大変な時期を乗り越えてきました。ご努力に感謝いたします。	B
	生徒と教職員との協同健康管理体制の確立	・感染症に係る最新情報や学校の取組（委員会活動等を含む）を、「ほけんだより」で適宜公開することで、生徒と保護者に周知する。	4: 肯定評価が85%以上。 3: 肯定評価が80%以上。 2: 肯定評価が79%以下。 1: 肯定評価が69%以下。	4	・「ほけんだより」を通じて、適宜、生徒や保護者に感染症に関する情報を周知した結果、多くの保護者から肯定的な意見をいただくなど、学校と生徒・保護者との協同体制の充実を図ることができた。引き続き周知を徹底していきたい。	・評価はAでよいのですが、評価基準が数値目標なので、診断・分析欄に実際の数値が入ってほしいです。	A
	生徒と教職員との協同生涯スポーツ推進体制の確立	・新型コロナウイルス感染症防止体制の中で、新体力テスト、クラスマッチ、体育大会等の体育的行事の実施方法を検討し、あらゆる状況においても、各自の健康の保持・増進を図っていくよう支援していき、100%実施（中止しない）を目指す。	4: すべて実施できた。 3: 1つ中止した。 2: 2つ中止した。 1: 3つ中止した。	4	・すべての体育的行事を計画通り実施し、生徒の健康の保持・増進を図ることができた。 ・今後も、基本的な感染対策を継続し、暑さ対策にも注意を払いながら、体育的行事の一層の充実を図ってきたい。	・体育的行事は西高の伝統行事でもあるので、継続してほしいと考えます。 ・進学校なので運動より勉強という生徒もいるかと思いますが、将来的に体力勝負になることや体をリフレッシュさせることで効率的に学習できることを伝えて頂けたらと思います。	A
図書・情報	図書館利用者の増加	・利用者のニーズに対応したアイデアを提供することで図書館の充実を図り、利用者増加を進める。	4: 利用者数200人以上。 3: 利用者数150人以上。 2: 利用者数100人以上。 1: 利用者数100人未満。	3	・生徒による「図書だより」、教員による「図書館通信」の発行やビブリオ・バトル、POPの制作・展示により、図書館への興味・関心を高めるよう努め、図書館の利用促進を図った。 ・授業による利用や旭陵館が使用できない場合の自習室としての活用も滞りなく運営できた。	・タブレットを含めオンラインでの図書利用についても検討されることを期待します。画像やアニメは分かりやすいですが文字からの情報収集の重要性をお教え下さることを希望します。 ・評価基準の利用者人数について、1年間では無いと思うのですが、その期間を評価基準に、また、数値目標なので結局何人だったかを診断・分析欄に入れてほしいです。 ・診断・分析内容よりこの判断で問題ないと思われる。3の判定の根拠資料があるとよりの確に判断しやすい。	B
	成績処理等にかかわるシステムの確立	・校務支援システムの円滑な運用を図り、教務部・進路指導部と連携しながら各業務の支援をする。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・本システムの使用開始から4年になるが、今年も操作マニュアルを更新しながら遅延なく対応した。 ・来年度は同システムが変わる予定なので、更なる対応に万全を期したい。	・困難な仕事と思われませんが、ご努力に感謝いたします。	A
	校務情報の共有化と個人情報管理の徹底	・個人情報の管理や機器等のセキュリティを確保しながら、より使い易いシステム運用を進めていく。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・他校での情報漏えい等発生時には、随時、教職員に対して注意喚起を行い、情報セキュリティの確保に努めてきた。情報管理上の大きな問題は発生していない。 ・今後は、フルクラウド化に向けて、適切に準備を進めていく。	・個人情報の管理は情報時代の必須アイテムです。面倒ですが、チェック体制をよろしく願います。	A
教育企画	普通科や探究科における課題解決力等の向上に向けた取組の充実	・学校設定科目である「基礎探究」「発展探究」「人文社会科学探究」「自然科学探究」等の授業において、探究科の生徒に「課題を発見する力」「課題を解決する力」「成果を表現する力」を育む取組を充実させる。	4: 課題研究を実施し、予定通り発表会を開催することができた。 3: おおむね課題研究を実施したものの、予定通りすべての発表会を実施することができなかった。 2: 課題研究を一部実施できず、予定通りすべての発表会を実施することができなかった。 1: 課題研究にまったく取り組めなかった。	4	・それぞれの教科において、予定通り実施し「課題を発見する力」「課題を解決する力」「成果を表現する力」を育むことができた。 ・2年次生及び3年次生については、学校外で開催された発表会やコンテストなどにも積極的に参加し、成果を上げることができた。	・多くのコンテストや発表会で優秀な成果を上げられていることは高く評価できます。 ・大学入試における面接では、課題研究の取組は部活と同様の柱です。ご努力に感謝します。 ・生徒の発表する態度など以前と比べてかなり落ち着いた、自信を持った発表態度に変わりつつあるように思う。 ・「育むことができた」、「成果を上げることができた」など、具体性に乏しい。たとえば、「課題研究を？回実施し、テストの成績は？程度であった。」のような記述が欲しい。	A
	本校で取り組む探究活動の情報発信の推進	・本校が取り組む探究活動等特色ある教育活動を周知するための広報用リーフレット「学びの速報」を、適宜発行するとともに、中学生を対象とした「探究科体験学習」や小学生を対象とした「わくわく探究教室」において、探究科の魅力を発信する。また、山口県立下関高等学校探究学習生徒発表会を開催し、中学生とその保護者に探究活動の成果を周知する。	4: 『学びの速報』等、情報発信が12回以上。 3: 『学びの速報』等、情報発信が9回以上。 2: 『学びの速報』等、情報発信が6回以上。 1: 『学びの速報』等、情報発信が3回以下。	4	・「学びの速報」については、時期にやや偏りはあったものの、おおむね定期的に発行し広報することができた。今後は、本校の学びにかかわる出来事を幅広く掲載できるようにしたい。 ・探究科体験学習やわくわく探究教室については、予定通り開催し、小中学生の理解促進を図ることができた。今後は、実施時期や内容の一層の改善を図りたい。	・「探究科体験学習」や「わくわく探究教室」は、西高の魅力を伝える素晴らしい取り組みだと思います。長く取り組んでいただきたい企画の一つです。 ・ホームページを更新されており情報発信が分かりやすくなっていると思います。取り組みが多目の目に触れ受験希望者が増えることを期待します。 ・「学びの速報？回、その他の情報発信？回」などの記述が欲しい。 ・理解増進を確認のためのアンケートは、実施しなかった？	A
	先進的な理数教育の充実等、SSH事業に係る研究開発の推進	・「ユニットカリキュラム」や「リレー探究」を実施し、生徒に深い学びを体験させるとともに、社会や自然の事象・現象を多様な視点から見る力を育む取組を充実させる。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	・10種類程度のテーマで「ユニットカリキュラム」を実施することができた。1テーマにつき複数のクラスで実施しているため、実施回数は、この数にクラス数をかけたものとなる。 ・「リレー探究」は、探究科1年次生と普通科2年次生を対象として実施することができた。普通科2年次生は、課題研究のカリキュラムの一つとして実施しており、課題を発見する力の育成に寄与することができた。	・様々な工夫に、感心します。 ・文章表現ではなく、具体的な数を示すべきである。	A
業務改善	学校組織の効果的な運営の推進	スクール・ポリシーや教育目標等を踏まえ、教職員の意識や取組の方向性の共有を図るとともに、主任等を中心に校内外の研修を通じて学校組織マネジメントに関する理解促進を図る。	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	・校内検討部会における検討状況を全教職員に共有し共通理解を図りながら、スクール・ポリシーを策定するとともに、スクール・ポリシーに即した教育活動の充実・改善の方向性について関係教員と協議を重ねた。一方で、他の教職員も含めて、学校経営に対する参画意識の向上を図ることに課題がみられる。 ・中央研修に教員を派遣し、組織マネジメントに関する研修成果の還元を図ることで、組織力の向上を図った。	・生徒の顔が見えない、辛い部分の仕事です。しっかりと、じっくりご検討いただき、感謝いたします。 ・どのような課題が明確にしたいですか。	B
	多忙化解消に向けて業務内容の精選及び教員間の業務量の平準化を図り、時間外在校等時間の減少につなげる。	4: 時間外在校等時間の月平均が45時間以下。 3: 時間外在校等時間の月平均が55時間以下。 2: 時間外在校等時間の月平均が65時間以下。 1: 時間外在校等時間の月平均が65時間以上。	3	・協議事項の精選を図ることで会議時間を短縮したり、教員間で業務の平準化を進めたりするなど業務改善を図り、時間外在校等時間が昨年度の53.3時間から51.1時間に減少したが、依然として長時間勤務の教職員が一定数みられる。	・生徒が目にする社会人は親や親族以外はほほえないと思われるので教員が生徒のロールモデルとなるように期待します。 ・難しい問題の取組、頭が下がります。一步一步無理が少ないようお願いいたします。 ・具体性のある記述となっている。	B	
	休暇等が取得しやすい職場環境をつくる。	4: 年休取得平均10日以上。 3: 年休取得平均7日以上。 2: 年休取得平均6日以下。 1: 年休取得平均4日以下。	4	・業務改善を進めていくことで、休暇等を申請しやすい職場環境づくりを進め、年休の平均取得日数が昨年度の9.7日から10.3日に増加した。 ・年休の取得状況に個人差がある点には課題がみられる。	・休暇等取得が増加したことは高く評価できると考えます。これも一足飛びには難しい内容で、取組に感謝いたします。 ・業務の改善については、単純にコロナ以前に戻すのではなく、これを契機に思い切って取捨選択をすべきである。	A	

5 学校評価総括(取組の成果と課題)と次年度への改善策

【学校運営】

○入学式、卒業式、PTA総会、PTA常任委員会、進路情報交換会等各行事とも円滑に滞りなく運営できた。また、案内文書の送付先を精選し、総数を縮小したためそれに関わる労力が軽減された。今後の改善策として、校外研修について見直しを図り、よりよきものとなるよう取り組んでいく必要がある。

○PTA関係ではアンケート結果における評価ポイントがかなり上昇したのでこのまま継続して努力していきたい。また、PTA新聞については多くの写真を掲載することによって視覚的にも生徒の生き生きとした活動の様子が伝わる出来映えで、よいものであると好評を博した。この流れを継続していきたい。

○メール配信については、災害等による緊急連絡から、事務室からの連絡、校外研修の連絡に至るまで、様々な用途に活用した。来年度は新システムへ移行するが、今後も緊急性も担保しつつ、各受信者へ必要な情報提供を行い、全受信者が適切かつ重要な情報を確実に受信できるようにするとともに、新ホームページ、Instagramを活用し、一層の情報提供を図っていく。

【学習指導】

○観点別学習状況の評価については、特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価の材料を模索していることが多い。次年度もさらに研修や情報収集などで、より精度の高い評価方法を確立していきたい。また、併設型中学校の設置も近づいており、中学校における学習評価も検討していく必要がある。やはり、20年以上前から観点別学習状況の評価に取り組んでいる中学校と協議や情報収集するなどして、評価の精度をあげていく。

○情報部・教務部・進路指導部と連携して、マニュアルの更新や改善に取り組んできたが、年度後半になって、校務支援システム上でトラブルによる処理の遅延や、人的エラーによるトラブルが発生した。ミス等が再発しないような操作方法・環境をつくっていききたい。また、来年度から新たな校務支援システムへ変更となる。今後も成績の算出方法等、適応し辛い点があると予想されるが、情報収集を行いながら、教科担当及び担任の業務を一層支援していきたい。

○小中学校の多くが、アクティブラーニングを取り入れた授業を行っている中で、中高のなめらかな接続を進めるために、本校もさらに推進していく必要がある。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、授業における生徒の主体的・協働的な学習活動を取り入れやすくなってきており、今後は確かな学力を定着させるための学習環境を構築していく。さらに、校務用パソコンがタブレットに代わっていくことを契機として、ICT機器を授業に積極的に活用しながら、アクティブラーニングを実践していくよう、研修や情報提供等を一層進めていく。

【生徒指導・教育相談】

○コロナ禍において集団行動の機会が少なかった生徒に対し、集団行動におけるルールやマナーについて継続的に指導を行った。今後も引き続き、全教職員で指導に当たられるよう、指導の基準や内容について周知を図り、継続的な指導を進めていく。

○いじめアンケートやスクールカウンセラーなど様々な形で情報収集を行い、問題が疑われる場合は、速やかに委員会を開き対応を協議した。生徒の精神的な面のケアなどもあり、すべての事案においての解消とはならなかった。今後は、いじめアンケート等様々な方法で情報収集に努め、いじめの可能性をもって委員会を開催し、対応を協議し迅速に調査を行い適切な指導に繋げていく。

○教育相談において、定期的な情報交換の場をもち、生徒情報の周知・共有を図った。スクールカウンセラー等、関係機関とも連携して適切な支援を行った。今後も、定期的な情報交換の場をもち、全教員で情報を共有する。支援を必要とする生徒に対しては、スクールカウンセラーや保護者・関係機関と連携し、迅速に対応して適切な援助を行っている。

【進路指導】

○全学年に向けての進路だよりは月1回以上発行できたが、低学年向けの進路だよりが十分に発行できなかった。進路指導部としての生徒との関わりについても、低学年を中心に生徒が気軽に相談できる体制づくりは十分にできていないと考えている。生徒への声かけを増やし、進路関係の集会を質・量ともに充実させていく必要性を感じた。改善策として、進路だよりについては今以上に15回配付することで、進路意識の更なる高揚を図りたい。来年度は今年ほど発行できなかった低学年向けの進路通信を発行したり、担任だけでなく進路指導部も協力しながら生徒面談の回数を増やしたりすることで生徒が十分にメタ認知できる進路指導の充実に努めていきたい。

○検討会議の回数は十分だが、進路検討会の進め方や内容に改善の余地があると感じている。特に学年を超えて多くの教員が気軽に参加し、生徒の進路について情報を共有できる体制がまだまだ不十分である。また、全ての生徒の進路実現に向けて丁寧な進路指導ができるように保護者との連携を強めるなどの体制作りが必要であると感じている。今後は、検討会議の回数は十分だが、進路検討会に学年を超えて多くの教員が気軽に参加し、生徒の進路について情報を共有できる体制を構築できたらと考えている。来年度は一人一人の生徒の進路実現に向けて丁寧に進路指導に取り組むことに加え、難関大学志望者の数が増えるように動機づけをしっかりと行っていききたい。また、それに向けて東大見学会やオープンキャンパスツアー、保護者ガイダンスなどの機会を増やしていきたい。

○進路指導に関する業務を多少スクラップできたが、来年度は更に業務を精選し、教員が研究会や大学訪問に参加する機会が増えるように環境整備に努める必要が大いにあると思う。そして、スムーズな生徒への還元につながるようになっていきたい。また、先進校への視察などを通して他校の指導を学ぶ機会を増やし、今まで以上に確信を持って進路指導に取り組める体制作りを努め、生徒のより高い進路実現を叶えていきたい。

【健康・安全】

○新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより季節性インフルエンザと同等の扱いになった。本年度は新型コロナや季節性インフルエンザは周辺学校よりも発生数がおさえられていたため、来年度以降も感染者数などを早期に把握し対応に努めていきたい。感染症を完全に遮断することはできないので、校内での予防教育により一層注力していきたい。また、感染症に関しては、新型コロナや季節性インフルエンザに限らず、あらゆる感染症に対して正しい知識を身に付けさせ、自ら感染症に対して予防的行動がとれるように指導していく。

○感染症に関わる最新情報や学校の取組(委員会活動を含む)を「ほけんだより」でお知らせしてきた。発行物がなかなか保護者に伝わらず形だけの刊行物にならないよう、より一層発信方法を工夫していくとともに、定期的に「ほけんだより」を発行し、情報発信に努めていく。

○体育的行事は感染症の影響を受けずに無事1年を終えることができた。感染症や熱中症対策に加え、令和8年度の併設型中学校設置に向けて、体育的行事の見直しや、再編を考えていかなければならない。また、今後の体育的行事を今までの下関西高校の伝統を生かしつつ、併設型中学校の開校に合わせて新たな年間行事を再考していく。

【図書・情報】

○図書館の配架や書籍への興味を喚起する工夫は継続して実施することができた。しかしながら、図書館の空調が故障したことも影響があると思われるが、図書館を利活用した授業等の教育活動は行うことができなかった。今後は、探究活動のみならず、各教科における図書館の利用をなお一層励行していく。「図書だより」「図書館通信」を定期的に発行し、図書活動の情報発信に努めていく。紙媒体による読書活動の重要性をしっかりと認識していきたい。

○校務支援システムについては、教育課程による大幅なシステム変更にも対応してきた。マニュアルも毎年上手く更新できたが、来年度は更に、クラウドを使った新たなシステムに移行するため、なお一層の注意を払って対応していきたい。また、来年度から新たな校務支援システムに移行する。使用上の変更点や問題点が出てくるのが予想されるが、マニュアルをさらに充実させ、操作する者の負担も考慮しつつ、業務に遅延やトラブルの無いように対応していきたい。

○情報セキュリティについては、個人情報の確保、セキュリティ対策、また、情報の提供を適宜行い、適切な運用ができた。また、来年度からフルクラウド化に移行するため、情報セキュリティの確保が一層重要となる。使用者の意識や操作ミスが大きなトラブルへつながる可能性があるため、校内研修等を充実させ、情報セキュリティの意識を一層高めて対応したい。

【教育企画】

○課題解決力の向上に向けた取組により、生徒一人ひとりの資質や能力を向上させることができた。また、課題研究の成果を学校外で開催された課題研究発表会やコンテストで披露し、評価していただくことができた。さらに、大学入試などにおいても、積極的に活用しようとする生徒がおり、学習と進路選択がつながるようになった。改善策として、課題解決力の向上に向けた取組として、来年度から学校設定科目「基礎探究A」「基礎探究B」が新たに設置される。これまでの成果を生かしながら、生徒に課題解決力を育むことができるよう工夫したい。

○概ね1か月に2回「学びの速報」を発行することができた。また、学校推薦型選抜や総合型選抜において、活動を証明する資料として活用することができた。今後は、探究活動に係る情報発信としては、引き続き「学びの速報」を発行していきたい。また、本校の学びにかかわる活動を幅広く掲載できるよう努めたい。

○先進的な理数教育にかかわる取組については、「リレー探究」や「ユニットカリキュラム」を実践することができた。年度当初、「ユニットカリキュラム」の実施がやや低調であったが、研修会の実施など改善に向けた取組を実施した。今後、先進的な理数教育の取組については、ユニットカリキュラムやリレー探究などのこれまでの取組を生かしながら、改善を図りたい。

【業務改善】

○新型コロナウイルス感染症の対策については5類への移行を踏まえるとともに熱中症防止対策を加えた対応を講じ、校内における感染拡大を防止することができた。感染状況が変化したことで、学校行事を単なる従前の形に戻すだけでなく、よりよい学校運営を進めていく上で検討を進めている。また、綱紀保持に係る校内研修を計画的に実施し、教職員の意識改革を図ることができた。今後も引き続き、具体的な事例を参考にし、研修をブラッシュアップすることで、教職員の意識改善に努めていく。

○職員会議等の審議事項・連絡事項を整理し、事前協議をすることで会議時間の短縮を図るとともに業務改善を進めることができた。今後は、業務の組織運営を一層進めるとともに、正副担任間の連携を有機的に行うことで業務の標準化を図っていく。

○校務分掌の改編を行うことで業務改善を進めるとともに職員室内の整備を進めたことで情報共有やコミュニケーションの充実を図ることができた。今後も業務の標準化を図ることでメリハリの利いた働きがいのある職場環境づくりを進めていく。